



8月のコラム

～知らない人に挨拶するのは恥ずかしい?!～

月に一度ジェルネイルをしてもらっている2時間ほどの間、担当してくれている若い女性といつも他愛のない会話を楽しんでいます。「スーパーのレジの店員さん、順番が回ってきたら『こんにちは!』とか挨拶してくれますよね。挨拶を返しますか?」そんな話題になりました。「無視するつもりはないんですが、知らない人にあいさつするのが恥ずかしくて・・・」と理由を聞いてちょっとびっくり。そうなんだ、恥ずかしいんだ・・・

駅の改札でも「おはようございます」という駅員さんのあいさつに返事を返す人はごくまれですよ。私は、ただ面倒くさいのだろうと思っていたのですが、知らない人ががいるところで声を出すのが恥ずかしいのです。これは、もちろん個性によるところも大きいと思うのですが、育ってきた時代の変化による環境の影響も大きいのかなと。

電話もパソコンも身近なものではなかった時代のコミュニケーションは、face-to-face。当然言葉を交わす機会が多くなります。日々市場での親の買い物についていくと、子どもの私も自然と知らない大人の人と話をすることになります。近所のお医者さんに行っても誰にとはなく待合室におられる方に、「こんにちは、暑いですね」とか「お先に」とかあいさつをするのが自然でした。通学途中でも庭先に出ている家人が声をかけてくれることも。

今は、誘拐などの心配もあり、知らない人と話をしてはいけないと教えられるようなので、そういう機会はなくなっています。だから、外で知らない人に向けて声を出すこと自体が恥ずかしいことになってしまっているのかも知れませんね。

マスク生活が1年半。成熟した大人はともかく、生きている期間が短い子ども達にとっては長い期間です。知らない人どころか、友達や周囲の人との会話の機会まで極端に減ってしまっています。ますます話すことが苦手になったり、心や表現力の発達に遅れが出たりするのはと気にかかります。専門家からは色々と発信がありますが、家庭や保育所、学校といった現場でどれだけ対応できているかといえば、おそらく極々一部でないかと。目は口程に物を言う。この目は、顔の表情も含めていいでしょう。感情を表現したり、相手の気持ちを読み取ったりする機会を意識して作る必要があるのではと思います。

コロナ禍の出口はまだ見えませんが、身近な夏の楽しみ（家飲みビール?かき氷?夕涼みの散歩?）を見つけて熱中症対策、災害対策も合わせて暑い夏を乗り切りたいものです。